

# 第1回基本構想審議会での基本構想素案に対するご意見

## 1. 基本構想の枠組みについて

No	意見	基本構想素案への反映
1	今回の変更点、計画期間の短縮、将来像等のまちづくりの方向への移行、体系の簡素化は、区民にわかりやすく伝えるとともに、社会の変化のスピードを考えたときに、方向性は妥当なものである。	
2	8つの柱に対して横ぐしを刺すような共通の目標を示すべきだと思う。	
3	3つのつながるの1番目「区政のさらなる発展」で示している区政の「中長期的なテーマ」の4つと「8つのまちづくり」はリンクしていないので、この辺の整理は必要ではないかと感じている。	8つのまちづくりの基本となる考え方を、3つの「理念」として整理
4	豊島区を魅力あるまちにしたいというのが一番の思い。誰もが安心して暮らして生涯を終えたい、こういう豊島区を作るための基本構想、基本計画にしたいというのがお弁当の一番大きな箱じゃないかなと思う。	
5	「つながる」より「つなげる」、自然と繋がるものではなくて、繋げるというぐらいの姿勢を打ち出したらどうかと思う。	
6	「つながる」よりは「つなぐ」ということを考えていきたい。行政にアクセスできない、アクセスしたくないと思う方々に、行政が前面に出て繋ぐという役割を果たしていくことが、これからは非常に大事になってくる。	「3つのつながる」を理念の一番目に位置付ける
7	繋がりで最も大事なものは人との繋がりが。誰々のうちの子ではなくて、社会のみんなで子育てしていくという、地域環境を豊島区でできたらと思う。	
8	未来の子どもたちのために、区民も一緒になって参加し、暮らしやすい場を作っていくといったメッセージがほしい。	理念(1)に、「参画と協働によるみんなで作る」を記載
9	「孤独孤立に関する法律」や「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」などの新しい法律もチェックしながら、未来をともに子供も含めていろんな人たちが参画するまちづくりをしてみたい。	
10	豊島区の自治の推進に関する基本条例に書かれている、「区民1人1人が主体であり主役」ということを、メッセージやキャッチフレーズなどで入れることができればいいと思う。	自治基本条例に記載されていることを、理念(1)(2)の中に記載
11	未来戦略推進プラン2024には、SDGsについて持続可能な誰1人取り残さないということだけが書いてあるが、多様性と包摂性についても記載すべき。	理念(2)に多様性・包摂性について記載
12	女性にやさしいまちづくりは、まさにジェンダー・イノベーション、ユニバーサルなまちづくりであり、多様な人達に優しいまちづくりを目指すものである。それが、3つのつながるのセンターに入っているのは非常に大きい。	理念(2)に多様性について記載
13	子どもたちみんなが将来豊島区に住み続け、楽しくかつ感動体験ができるようなまちにしたい。	理念(2)に「住みたい、住み続けたいまちの実現」を記載
14	私の中にあるキャッチフレーズは「住み続けたい、豊かなまち」	
15	豊島区の地理的要因の観点から、落ちていると思う。埼玉県から東京に入る玄関口であるとか、現行でも国際アートカルチャー都市という言い方をしているが、世界の中の池袋、豊島区というような特性のことも謳っていくべきではないか。	
16	このまちはこういう姿が良いのではないかといい地域、ゾーン単位で検討することも必要。池袋はターミナル駅として人の流れの結節点という役割があるため、都や近隣区、埼玉県等との協調が何ができるかという視点も重要。	豊島区の特徴にあった自治体運営を3つ目の理念とする
17	東京への流入が再加速しているとのデータもあるので、地方から移り住む方々に東京の中でも豊島区が居住したい街として選ばれるような取組をアピールできると良いように思う。	
18	将来を子どもたちにつなげるためには、財政運営の継続や確立が重要。区として長期的に安定的に運営できる体制としてのガバナンスやコンプライアンスの確立も指針を立てた方がよい。	「構想の実現に向けて」に「持続可能な行政運営」「柔軟かつ効率的な行政運営」について記載
19	長期的に安定した歳入の確保、居住の場、経済活動の場としての魅力を高め、バランスのとれた人口世帯構成を確保する取組が重要であり、これが実現される施策が設定されるべきであると思う。	

## 2. まちづくりの方向性(8つのまちづくり)について

No	意見	委員
20	「8つのまちづくり」に本区の特徴であるアートカルチャーであったりウォークアブルというようなまちづくりが反映されているので、それを軸に議論をしていくのがよいと思う。	8つのまちづくりを基本に修正
21	柱の数は、細かくしすぎるとわかりづらくなってしまっているので、参考の他自治体と同程度がよろしいのではないかなと思う。	
22	「1誰もが安全・安心に暮らせるまち」に健康が入っているのは違和感がある。別途項目を立てたほうが良いのではないか。	「健康」を独立した柱とする

No	意見	基本構想素案への反映
23	「2」と「3」の子育て分野には、児相や若者支援はどちらに位置付けるのがよいのかなどの課題がある。	「2」は事業の対象が「保護者」や「子育て家庭」、「3」は「子ども・若者本人」で区分
24	3番は笑顔で元気でいいけれども、「持続可能な社会の作り手となる豊島っ子が育つまち」のような、豊島区らしさを出していけたらいいと思う。	「子ども・若者が自分らしく成長できるまち」の修正
25	「5シニアライフが輝くまち」は柱としては絞りすぎていると感じる。枠外にある障害や生活困窮者なども含めた大きく福祉という視点かと思う。	「福祉」全般をまとめて柱とする
26	「6商店街を元気に」は商店街と産業振興のみで柱として小さいと感じる。	「文化」と「産業」をまとめて柱とする
27	「治安」の要素を一つ項目立てて、女性や若い方が見た時に住みたいと思ってもらうことが重要。	安全・安心の柱の中に「治安対策」を追加
28	例えば「ウォーカブル」は「回遊性のあるまち」とか「散歩しやすいまち」のほうが分かりやすい。また、「子育てしやすいまち」も、「公園が多いまち」といったように、分かりやすい言葉でイメージを高めていくことが重要。	「ウォーカブル」を「歩きたくなるまち」に変更するなどわかりやすい表現に修正
29	他自治体の方針と比較して、分かりづらい部分もあるが豊島区の計画はキャッチーな言葉を用いたり、網羅性があって良い。	
30	その他、緑や住宅、交通、衛生、地域コミュニティなど、総合計画なので、区民にわかりやすく、様々な施策が網羅されるように作っていききたい。	様々な施策が網羅されるように修正
31	区の計画だから区独自の問題、福祉から暮らしから様々な交通から産業からも様々な分野があると思うので、そうした視点で、より良い基本構想、基本計画にしていきたい。	
32	組織図を見ると区民に直接接点がある部局も7つか8つぐらいかと思う。横断的に横ぐしを刺すことも必要であるが、組織図も意識して作ることも必要なのではないかと思う。	組織も意識して修正
33	参画と協働、多様性を尊重しあえるまちは、8つのまちづくりとは別に、区政を推進する基本方針のような項目として位置づけていただきたい。	多様性の尊重等、全ての施策に共通する項目は8つのまちづくりと別に位置付ける
34	8つのまちづくり全てにジェンダー主流化は関わってくると思うので、今後のポストSDGsと言われているのがまさにウェルビーイング、心の健康、体の健康、社会の健康のところ、この社会の健康っていうものが心の健康や体の健康に非常に重要である。	

### 3. その他意見

No	意見	委員
35	人口フレーム、人口動態、転出転入の理由などを含めて人口のトレンドは丁寧にしておく必要がある。	第2・3回審議会で人口分析・推計について協議
36	基本構想・計画と教育ビジョンの整合を図るべき	庁内の検討委員会で分野別計画との整合を図っていく
37	これまで文化によるまちづくりを大きな柱にしていたので、今後文化をどう考えていくのかというのはかなり大きなテーマだと思うのでぜひ議論を深めたい。	今後の基本計画の検討の参考とする
38	区がしっかりと伸びていくために必要なのは、会社があるか人がいるかの2点。新しい企業が来るまちかといわれると池袋は正直魅力がまだまだ弱い。駅前再開発を予定している中で、企業誘致ができるまちになるかという視点が重要。	今後の基本計画の検討の参考とする
39	子育て人口が増えるまちにできるかは、産む準備がしやすいか、育てやすいかの2点にかかっている。実際に産めるような準備ができるまちかというところでは、まだまだ豊島区は歩きづらく、いろいろな単元からサービスを提供してしまっている問題がある。産んだあとのアフターケアや場所も含めて、ハードソフトの両面で連携が必要。	今後の基本計画の検討の参考とする
40	税金は法律に基づいて徴収されるが、ある意味区民は区に投資しているとも考えられる。そのステークホルダーである区民に成果を示すということが必要。	今後の基本計画の検討の参考とする
41	市民参加型のパブリックスペースや場の創設が重要。(渋谷区のササハタハツエリア)	今後の基本計画の検討の参考とする
42	西武ホールディングスやサンシャインのような企業と連携しながら進めることが重要。	今後の基本計画の検討の参考とする
43	池袋駅だけでもバリアフリーは全然できてない。アジアの国の公園には健康器具がたくさんある。豊島区の公園にも健康の視点とかも取り入れていただきたい。	今後の基本計画の検討の参考とする
44	8つの方向性の連携を意識する必要がある。職員が現場に出向き、区民・事業者の方が実現したいことを後押ししていくという職員マインド、そういうカルチャーを作っていくことが連携を実質化する方向なのではないか。	今後の基本計画の検討の参考とする